

疾患名 : 進行・再発胃がん 1クール :28 日(2 投 2 休) 総クール数 : PDあるいはPS悪化まで

1. 薬剤

抗癌剤一般名	商品名	標準投与量	投与日	用量規制毒性
ドセタキセル	ドセタキセル「サンド」	40mg/m ²	Day1	好中球減少
シスプラチン	シスプラチン「マルコ」	60 mg/m ²	Day1	腎障害
S-1	ティーエスワン	80 mg/m ²	Day1-14	血液毒性(グレード 3 以上)、消化器症状(グレード 2 以上)

2. レジメン

投与日	ルート	投与時間	使用薬剤名	標準投与量	備考
Day0	点滴静注	24 時間	YD ソリタ T3 500mL	4 本	前日のハイドレーション
Day1-14	内服(1 日 2 回)		ティーエスワン	80mg/m ²	
Day1	点滴静注 (本管)	2 時間	5%ブドウ糖液 500mL	2 本	シスプラチン投与開始 2 時間前より
			10%塩化ナトリウム注 20mL	1 本	
Day1	点滴静注 (側管)	30 分	アロキシ(0.75mg/5mL)	1V	シスプラチン投与開始 2 時間前より
			デカドロン(3.3mg/1ml)	3A	
			生食 50ml		
Day1	点滴静注 (側管)	30 分	フロセミド(20mg/2ml)	1A	アロキシ投与後 点滴中に、イメンドカプセル(125) 1cap 内服
			生食 50ml		
Day1	点滴静注 (側管)	60 分	ドセタキセル「サンド」	40mg/m ²	フロセミド投与後
			生食 500ml		
Day1	点滴静注 (本管)	2 時間	シスプラチン「マルコ」	60mg/m ²	
			生食 400ml		
Day1	点滴静注 (本管)	2 時間	5%ブドウ糖液 500ml	2 本	シスプラチン投与終了時より 必要時さらに輸液
			10%塩化ナトリウム注 20ml	1A	
Day1	点滴静注 (側管)	30 分	フロセミド(20mg/2ml)	1A	シスプラチン投与終了時より 生食 50mL
Day1	点滴静注	18 時間	YD ソリタ T3 500mL	3 本	5%ブドウ糖液に続いて、翌朝まで
Day2	点滴静注	24 時間	YD ソリタ T3 500mL	4 本	
Day2-3	内服(1 日 1 回)	朝	イメンド cap(80)	1cap	

3. 初回投与基準

- PS規定: PS 0~2
- ヘモグロビン \geq 9.0g/dl、白血球数 3500~12000/mm³、好中球数 \geq 2000/mm³、血小板数 \geq 10 万/mm³
- 総ビリルビン \leq 2 \times 正常値、AST、ALT $<$ 2 \times 正常値、クレアチニン $<$ 正常値、(クリアチンクリアランス \geq 80ml/min)

4. 休薬基準(休薬を考慮する値・症状など)

- 白血球数 $<$ 2000/mm³、好中球数 $<$ 1000/mm³、血小板数 $<$ 5 万/mm³
- AST、ALT \geq 2 \times 正常値、クレアチニン \geq 正常値、(クリアチンクリアランス $<$ 60ml/min)
- グレード 2 以上の下痢、口内炎、悪心、嘔吐、食欲不振などの消化器症状

5. 休薬後再開基準 (休薬が 7 日以内ならば同一コースとして、8 日以上ならば次コースとして再開する)

- AST、ALT $<$ 2 \times 白血球数 \geq 3000、好中球数 \geq 1500/mm³、血小板数 \geq 7.5 万
- 正常値、クレアチニン $<$ 正常値、(クリアチンクリアランス \geq 60ml/min)
- 下痢、口内炎、悪心、嘔吐、食欲不振などの消化器症状が回復している。

6. 減量基準 (以下の値、症状が出現した場合、次回再開時減量を考慮する。)

- 白血球数 $<$ 1000/mm³、好中球数 $<$ 500/mm³、血小板数 $<$ 2.5 万/mm³
- AST、ALT \geq 2 \times 正常値、クレアチニン \geq 正常値、(クリアチンクリアランス $<$ 60ml/min)

- (3) 下痢、口内炎、その他の非血液学的項目がグレード3以上、悪心、嘔吐、食欲不振などの消化器症状がグレード4以上
TS-1 減量の目安 120mg/day→100mg/day→80mg/day→休薬または投与期間の短縮
CDDP 減量の目安 10mg/m²単位を目安とし減量